

自己評価報告書

平成23年4月4日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20600007

研究課題名（和文） 学習意欲を高める授業科目が教育成果全般に及ぼす影響とその評価

研究課題名（英文） Influence and Evaluation of the Subject improving the willingness to learn

研究代表者

青野 透（AONO TOORU）

金沢大学・大学教育開発・支援センター・教授

研究者番号：00202490

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：学習意欲 学習動機付け 教育成果 教育効果 学習支援 評価 カリキュラム

1. 研究計画の概要

平成20年度にスタートした金沢大学の新たな教育組織（3学域・16学類）の学生の4年間の学習状況を調査することによって、用意された学習動機付けを含む諸々の学習支援の試みがどのような教育成果（アウトカムズ）を生み出すかを、旧システムで学習している学生との比較も含めて、実証的に明らかにする。また、他の高等教育機関における同種の試みについての書面および訪問調査を実施し、学習動機付けを意識したカリキュラム開発と教育組織の関係、およびそうしたカリキュラムの教育成果・効果について研究する。併せて、教育成果の評価指標・評価手法、効果的な目標達成のための学習支援に関する評価指標、さらには関連FDの開発研究のための基礎資料等を得ることを目的とする。

2. 研究の進捗状況

学生アンケートを重視した研究を行ってきた。すなわち、研究対象である、金沢大学における、学生の学習状況についてアンケートを継続して実施し、その分析を始めている。その中から、カリキュラム上学習意欲を高めている科目はどれなのか、学生の目から見た学習意欲を高める科目であることの要因は何か、そしてそれを受講することによってどのような教育成果が上がっているのか、等を中心として、解明を進めている。

全国の高等教育機関で、学習意欲あるいは教育成果は、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーなどの作成において注目すべきキーワードとなっている。この観点から、教育改革のための優れた取組を行っている

大学等に訪問調査を行っている。また、大学教育学会などの学会や各地の大学コンソーシアムなどの種々のセミナーなどで、関連する報告があれば参加してきている。そのような場で、情報収集を行うとともに、関係者と意見交換を試み、研究の深化に努めている。

関連文献の収集にあたっては、CiNii 学術コンテンツポータルや、各大学図書館のリポジトリで検索して入手している他、この種の研究資料収集で定評のある広島大学高等教育研究開発センター図書室等を活用させてもらっている。こうした文献を読み込むことにより、研究の精緻化を図っている。

研究成果については毎年、主として大学教育学会等で報告し、他の研究者との意見交換により、研究のあり方を随時見直すようにしている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

当初の計画通り、毎年度、研究対象である、金沢大学の学生に対するアンケート調査を実施できている。その分析も進行中である。関連文献の調査および収集もスムーズに行っている。先行研究が無いテーマであることから、想定を超える進捗での研究とはなっていないが、大学教育学会等の研究成果報告の場においても、質疑応答により一定の評価がされていることは実感出来ている。

4. 今後の研究の推進方策

これまで実施してきたものと同一内容の学生アンケートを平成23年度も継続して実

施する。アンケートの分析を継続して実施し、平成 24 年度はそこから得られる仮説の検証に具体的に進む。

平成 23 年度は、新たに、大学入学前の学習意欲について、その向上のために優れた取組を行っている高等学校への訪問調査を行うことにしている。また、関連の文献収集も行う予定である。そのため、元高校教諭の経歴を持つ研究者に研究分担者に加わってもらった。

関連情報の収集を継続して実施する。学習支援に優れた大学等の訪問調査および関連するセミナー等に参加し情報収集を行う。関連文献調査およびアンケート分析結果に基づく研究成果の一端を、随時、学内にて報告する。

平成 24 年度後半には、報告書の作成に向けた業務を中心に取り組む。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ①青野透, クリッカーから始まる双方向多人数授業－学生が考え発言するアクティブ・ラーニングへ, 大学時報, 336 号(2011), 56-61, 査読無
- ②青野透, 学習動機を高めるポータル会議室を利用した双方向授業, 文部科学教育通信, 255 号 (2010), 26-27, 査読無
- ③青野透, ポータル全面活用と教員調査から始まる教育改善の実践と研究, 文部科学教育通信, 216 (2009), 18-19, 査読無

[学会発表] (計 8 件)

- ①青野透, 学習動機を高めるためのクリッカー活用－授業改善の 1 つの試み－, PC カンファレンス 2010, 2010 年 8 月 8 日, 東北大学 (宮城県)
- ②青野透, 「生命・医療倫理」授業におけるクリッカーとポータル活用による考えさせる授業と学習動機付け, 第 42 回日本医学教育学会大会, 2010 年 7 月 30 日, 都市センターホテル (東京都)
- ③青野透, ポータルとクリッカーを活用したグループワークによる学生の学習動機付け, 日本リメディアル教育学会第 5 回全国大会, 2009 年 9 月 2 日, 千歳科学技術大学 (北海道)
- ④青野透, 末本哲雄, 松尾理恵, 授業客観化のためのクリッカー活用－教育効果のリアルタイム把握を中心に－, 大学教育学会第 31 回大会, 2009 年 6 月 7 日, 首都大学東京 (東京都)
- ⑤青野透, 末本哲雄, 山川達也, 学習振り返りのためのクリッカー活用－学生の授業

参加意識と学習動機を高める授業方法－, 日本高等教育学会第 12 回大会, 2009 年 5 月 24 日, 長崎大学 (長崎県)

- ⑥青野透, 適時の知識確認方法としてクリッカー等を用いた授業－学習動機の明確化と発展に向けて－, 教育システム情報学会 2008 年度第 5 回研究会, 2009 年 1 月 23 日, 八王子学園都市センター (東京都)

[図書] (計 1 件)

- ①松本美奈, 青野透, (他 12 名), ナカニシヤ出版, 学生と変える大学教育, 2009 年, 62 頁～75 頁